

令和7年度 第2回川崎地区学校運営支援協議会

期日:令和7年11月17日(月)

時間:14:40~15:40

場所:川崎中学校会議室

受付:13:20

授業参観:13:35~14:25

1 開 会

司会:事務局校副校長

2 会長あいさつ

3 会場校校長あいさつ

4 議事(議長:会長)

(1)今年度活動中間報告

① 川崎小学校(副校長)

② 川崎中学校(副校長)

(2)クマ等安全対策について

①川崎小学校(校長)

②川崎中学校(校長)

(3)その他情報交換

① 児童生徒の様子

② その他

5 連絡

・第3回:令和8年2月²⁰~~17~~日(金)^火 15:00~16:00

会 場:川崎小学校 受 付:14:45~14:55

内 容:今年度学校評価と令和8年度学校運営について

・委員報酬講座委任状受け取り

6 その他

7 閉 会

令和7年度 学校運営支援協議会委員 名簿

番 号	氏 名	役 職 等	出欠等
1	三 浦 忠 二	川崎まちづくり協議会 議長	
2	門 田 恒 治	川崎町自治会連絡協議会会長	
3	内 田 正 好	特定非営利活動法人一関文化会議所理事長	欠
4	岩 渕 正 晴	川崎町民生児童委員協議会	
5	小野寺 順 子	川崎町民生児童委員協議会	
6	吉 田 富美恵	川崎町主任児童委員	
7	千 葉 敏 恵	川崎町主任児童委員	
8	千 葉 勝 雄	ドンと市かわさき協同組合専務理事	
9	小 野 幹 雄	一関市障がい者スポーツ協会事務局長	
10	千 田 浩 一	一関市役所川崎支所地域振興課課長	
11	岩 渕 道 明	川崎市民センター所長	
12	小 野 峻 裕	一関市立川崎小学校 PTA 会長	
13	三 浦 啓	一関市立川崎中学校 PTA 会長	
14	山 戸 貴 義	一関市立川崎小学校 校長	
15	齋 藤 真	一関市立川崎中学校 校長	

【事務局】

事務局長	佐藤 伸子	小学校 副校長	
事務局次長	高木 由子	中学校 副校長	
事務局員	渡邊 凱斗	小学校 主事	欠

1 地域コーディネーター配置への動き

- ・一関市で「地域コーディネーター」が配置されていない地域は2つ。うち1つが川崎地区。
- ・第1回学校運営支援協議会で話題提供させていただいた後、川崎支所地域振興課課長様を主として、本庁生きがいつくり課・小中学校が集まり、9月までに3回「地域コーディネーター導入検討会」を開催した。
- ・来年度4月から、現在小学校主任用務員の小野寺氏を配置予定。小野寺氏は、生涯学習コーディネーターの資格を取得しており、地域や学校にも精通していることから適任と言える。
- ・活動の在り方の詳細はまだ検討中であるが、席（籍）を小学校に置き、週1回中学校に出向く方向で考えている。

2 学校支援ボランティア等年間予定・実施表

・学校支援ボランティア登録者数：23 名

・支援団体：7 団体

・他協力店：5 店舗

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全体
4 月	給食配膳 R8～ ・橋本さん ・金今さん				俳句教室 ・内田さん	・内田さん	
5 月				布佐神楽 ・布佐神楽保存会	メダカ米田植え体験 ・門崎ファーム ・JA		
6 月	水泳補助 ・千葉◎さん ・菅原さん		ホテルの学習 ・北上川サポ ート協会	水生生物調査 ・北上川サポ ート協会 ・千葉◎さん			環境整備 ・金今さん
7 月	↓		スーパーマーケ ット見学 ・旭や		・内田◎さん・内田◎さん・ 吉田さん・三浦◎さん・三浦 ◎さん・橋本さん・小野さん ・小野寺さん		↓
8 月							
9 月			合唱指導	合唱指導	ミシン操作	ミシン操作	読み聞かせ
10 月		町探検（永盛 堂・湖月堂・ 格之進） ・葛西◎さん ・橋本さん	・吉田さん 河崎の柵跡見学 ・川崎学代表橋 本さん	・吉田さん	・内田◎さん ・伊藤さん ・葛西◎さん		↓
11 月		川崎図書館見 学 ・橋本さん		手話・点字（社 協） ・千葉◎さん ・葛西◎さん	メダカ米収穫 ・門崎ファーム ・JA ・食改	調理実習 ・内田さん伊藤 さん葛西さん	特支買い 物学習 ・葉王堂
12 月							
1 月						合唱ピアノ指導 ・吉田さん	
2 月						↓	
3 月						↓	

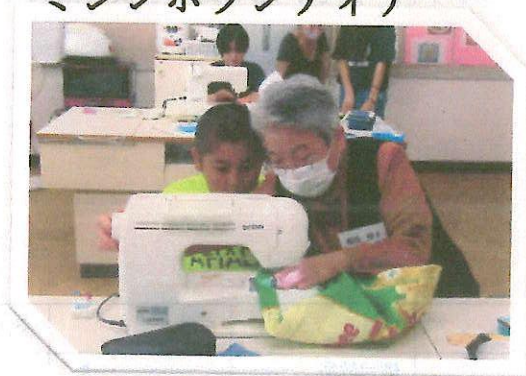
3 活動の様子

布佐神楽保存会 運動会にて



水泳ボランティア

ミシンボランティア



稲刈り体験



水生生物調査



ようこそ先輩川小コンサート鑑賞



読み聞かせ



合唱指導

1 日常的な対応

(1) 登下校時の見守り

登校時 7:30～8:00

矢作郵便局前T字路での見守り

下校時 14:50～16:20

学区の見回り

15:10

1～2年のスクールバス乗車確認

16:05

4～6年のスクールバス乗車確認

(2) 休み時間の見守り

業間時間 10:15～10:30

校庭 (3～5名)

昼休み 13:00～13:30

校庭 (3～5名)

2 全校集会・学級活動等での熊から身を守るための実演指導

熊に出会ってしまったことを想定

→背中を見せて走らず、ゆっくりと後ずさりして離れる。(背中を見せると本能的に襲ってきます。)

→カバンなどの持ち物を置いて、それに熊が気を取られている隙に逃げる。

→熊が攻撃してきたら、体勢を低くし、両手で顔や頭をカバーして防御する。

3 校報やメールでの保護者との共有

(1) 校報 別紙参照

(2) メール 保護者への熊出没の情報提供と、学校までの送迎のお願い

4 扉への表示



5 その他

・11月中に、「校庭に熊が出没したことを想定」した訓練を実施予定。

11月中に行うことを児童と保護者に事前に知らせた上で、抜き打ち的に行う。

熊の出没情報が頻発しており、 子どもに安全確保をよびかけています！

熊の被害については、連日のように新聞・ニュースで報道されているところですが、川崎地区でも熊の目撃情報が多くなってきており、いつ目の前に熊が現れてもおかしくない状況です。とにかくできることは、確実に実行し、安全の確保に努めていきたいと思います。

学校では、熊から身を守るために子どもたちに連日のように、指導しておりました。各家庭においても、改めてお子さんと熊から身を守るための話合いをしていただきたいと思います。

<熊から身を守るためのできること>

- ・登下校の際は、複数で歩く。(特に下校時は、集団下校でないため、子ども一人ではなく、保護者の方の付き添いがあると安心です。)
- ・ランドセルに鈴をつける。(熊は鈴の音を嫌がります。)
- ・食べ物を持ち歩かない。(ガムや飴などランドセルに入れない。熊は嗅覚が鋭いです。)
- ・熊を見かけたら、どこでもいいので保護をお願いします。(民家に駆け込む)
- ・もしも、熊に出会ってしまったら
 - 背中を見せて走らず、ゆっくりと後ずさりして離れる。(背中を見せると本能的に襲ってきます。)
 - カバンなどの持ち物を置いて、それに熊が気を取られている隙に逃げる。
 - 大声で叫んだり石や棒などを投げつけたりしない。(熊が興奮します。)
 - 熊が攻撃してきたら、体勢を低くし、両手で顔や頭をカバーして防御する。

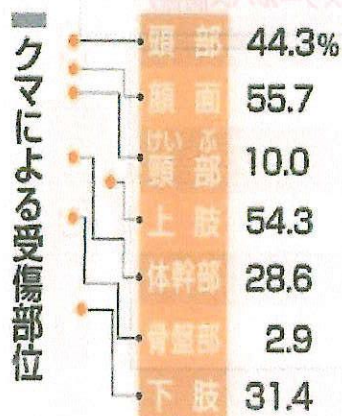


今年度の県内の熊被害は、10月15日現在、人身被害が29件で昨年度の15件を大幅に上回っており、4月に県全域に発令された「ツキノワグマの出没に関する警報」が今も解除されていない状況です。

お願い 熊対応については、保護者の方々に様々ご協力いただいております。ありがとうございます。子どもたちの、下校児童(徒歩児童)の様子を見ますと、まだ、途中で立ち止まってお話に夢中になっている様子がみられます。熊にあう確率をいくらかでもなくしたいと思いますので、繰り返しの声掛けをお願いいたします。

うつぶせで熊からの重症化逃れる！

熊被害が連日に報道されておりますが、岩手日報 11月27日（月）朝刊によれば、熊が至近距離でいたときの防御姿勢を、うつぶせになり、首、頭、腹部を守ること、手や首を負傷するものの重傷を逃れられる割合が高いと、報じています。熊は、威嚇や攻撃をする際に、立った姿勢で顔面や頭部を中心にせめてくることから、防御するために体勢を低くする際の一つの方法として、校内でも共有し、子どもたちにも指導しているところです。



※秋田大大学院などの
研究班の調査結果による

クマが至近距離で いたときの防御姿勢

うつぶせになり、
首・顔・腹部を守る



※環境省による

保護者の皆様には、連日のお子さんの送迎や、熊よけのためのお子さんのランドセルへの鈴の装着等、ご協力いただきありがとうございます。何とか子どもたちを熊から守るために、学校でできる対応を最大限していきたいと思っております。引き続き、よろしくお願いいたします。

熊にあわないようにするための意識 を高めましょう！

一関市での連日の熊出没情報を受け、学校でも職員が登下校時の見回りをしているところですが、下校時の子どもたちの様子を見ると、おしゃべりしながらゆっくり歩いたり、地面に落ちているものを蹴りながら歩いたり、水路をのぞいたりしている姿を目にします。「早く帰ります。まっすぐ帰ります。」と声掛けをすると、慌てて歩き出します。

友達とおしゃべりを楽しみながらゆっくり帰りたい気持ちはよく分かるのですが、今は、特にも熊から身を守るためにもそれぞれが、意識を高めていく必要があります。

熊にあわないようにするためにも、改めて下記についての呼びかけを、学校でもご家庭でもしていきたいと思っております。

熊にあわないようにするために

- ① できるだけたくさんの人と登下校する。
- ② 通学路をとおり、寄り道せず、まっすぐ家に帰る。
- ③ 夕方、暗くなる前に家に入る。
- ④ 人や車が多い道を通る。
- ⑤ 子どもだけで、山や川のそばにいかない。



クマ出没時

クマ出没情報

緊急対応が必要か

必要ない

最新情報の収集及び状況に応じて、警察・教育委員会（地域振興課）等関係機関との連携

【各関係機関】

警察 110 番
消防 119 番
教育委員会 82-2239
地域振興課 43-2113
川崎中学校 43-3115
川崎タクシー 43-2340
(スクールバス関係)

登校前

- ☐ 教職員の緊急招集、情報共有と対応協議
- ☐ 保護者への連絡(メール配信等)
 - ・学校が得た情報を正確に伝達
 - ・登校時の注意事項指示
 - ・必要に応じて、付き添いや見守り等の依頼
- ☐ 通学路の安全確保
 - ・教職員による巡回・立哨・出迎え等
 - ・警察・スクールガード等への支援要請

在校時

- ☐ 教職員間での情報共有と対応協議
- ☐ 児童への連絡
 - ・下校時の注意事項指示
 - ・下校時刻および下校方法（集団下校、保護者への引き渡し等）の徹底
- ☐ 保護者への連絡
 - ・学校が得た情報を正確に伝達
 - ・学校の対応
 - ・下校時刻および下校方法
 - ・必要に応じて、付き添いや見守り等の依頼
- ☐ 通学路の安全確保
 - ・教職員による巡回・立哨・出迎え等
 - ・警察・スクールガード等への支援要請

登下校時遭遇

- 遠くに熊を発見した場合：・慌てず静かにその場を離れる。大声を出したり物を投げて熊を刺激したりしない。
- 突然熊に出会った場合：・熊から目を離さず、ゆっくり後退しながら距離を取る。背中を見せて走って逃げない。子熊を見つけた場合は親熊が近くにいる可能性があるため、静かにその場を離れる。
- クマに襲われた場合：・地面に体を伏せ手で頭を押さえて頭部への攻撃を防ぐ。 ※安全な場所（近くの家や建物）に避難すること。

クマが捕獲されていない

事後対応

- ☐ 教職員の情報共有と対応協議
- ☐ 保護者への連絡(メール配信等)
 - ・最新情報の提供
 - ・翌日の登校方法・下校方法等
 - ・学校が実施する通学路の安全対策
 - ・不安を訴える児童の確認と心のケア依頼

はじめに

第1章 発生時の緊急対応

1.1_事案発生時の初期対応と情報収集

1.2_登下校・待機等の判断と対応

1.3_報道機関等への対応・報告

第2章 今後の対応策（未然防止策）

2.1_危機管理体制の確立と関係機関との連携

2.2_未然防止策と児童生徒への指導

第3章 緊急連絡網と対応フロー

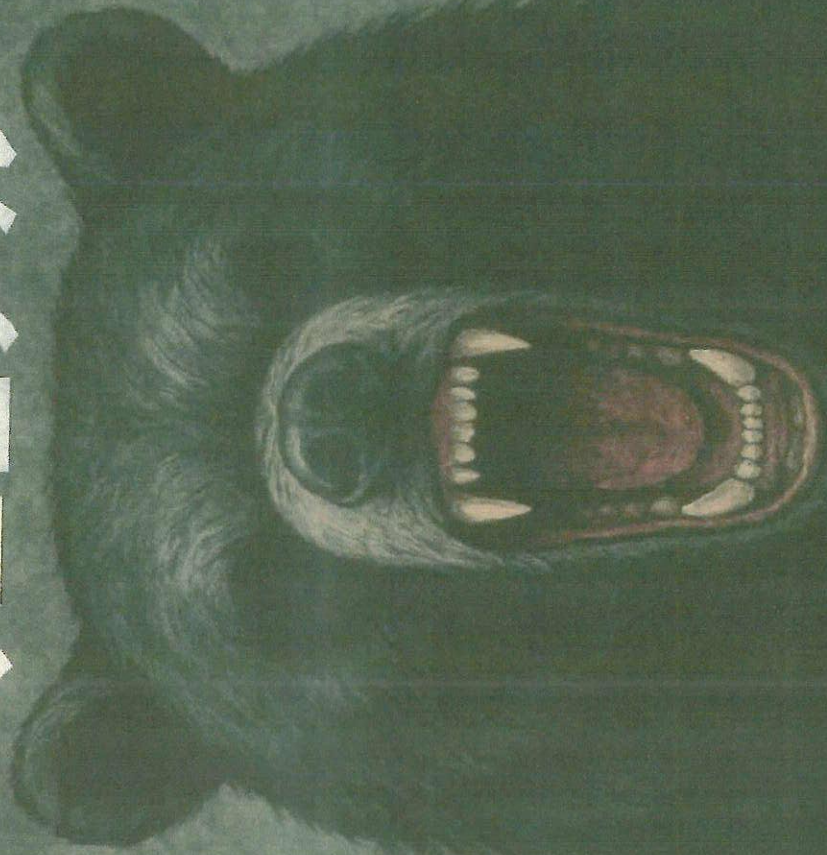
3.1_緊急連絡網（例）

3.2_クマ出没時の対応フロー

第4章 参考：クマの習性と安全指導のポイント

一 関市内小・中学校における

クマ出没対応 マニュアル



一 関市教育委員会

1

1. The first part of the paper is devoted to the study of the asymptotic behavior of the solutions of the system (1) as $\epsilon \rightarrow 0$. It is shown that the solutions of the system (1) converge to the solutions of the system (2) in the sense of the weak convergence in the space $L^2(\Omega; \mathbb{R}^n)$.

□ 八ヶ岳—北穂の概観

保護者

児童生徒

地域住民等

クマを目撃した！

各小・中学校

最優先

林政推進課
☎ 21-8438

近隣小・中学校
☎ 00-0000

保護者等
☎ 00-0000

近隣駐在所
☎ 00-0000

学校教育課
☎ 82-2241

関係児童クラブ
☎ 00-0000

近隣幼児施設
☎ 00-0000

見守り隊
☎ 00-0000

各地域振興課
☎ 00-0000

1

100

-

第2回避難訓練実施計画（不審者対応）

令和7年7月15日（火） 総務

1 期 日 令和7年9月8日（月） 14:00～14:30

2 目 的

- （1）不審者が校地内に侵入した場合の初期対応並びに児童の安全確保の方法を理解する。
- （2）合言葉を覚え、放送に従い、迅速・適切に対処・避難することができるようにする。

3 想 定

- （1）侵入口と避難経路及び避難場所（個々に活動している時でも、この経路を基本とする）

侵入口	避難経路	避難場所	備考
① 東昇降口 ② 体育館通路 ③ 体育館 ④ 職員玄関 ⑤ 西昇降口	・教室をバリケードし、窓側に寄って、静かに待つ。 ・次の放送を聞いて、集合する。または、教室で避難解除とする。	教室（→体育館）	・バリケードは、2か所のドア前に机やTVを寄せる。（重ねられるときは重ねる） ・いつでも教室外に出られるように、心を落ち着けて、静かに待機。 ・体育館に集合したときは、全員の避難が確認出来たら、体育館すべての入りを施錠する。 ・移動は「おはしも」で整然と行う。
⑥ 校庭	中にいる場合 ・外に出ず、教室をバリケードし、窓側に寄って、静かに待つ。 ・廊下やトイレにいる場合は、急いで教室に戻る。 外にいる場合 ・不審者から遠い昇降口から校舎内に入り、教室に戻る。以下は同じ。	教室（→体育館）	・騒がず、静かに教室に戻る。

（2）時間帯

児童がそろっている時間帯：授業中・給食時間、

児童がちらばっている時間帯：朝・業間・昼休み、清掃時間、放課後

（3）児童がいる場所

教室、特別教室、図書室、廊下、トイレ、体育館、校庭

（4）人物像

凶器の所持の有無、性別、年代、体格

4 合言葉

・「川小タイム」 不審者出現

① 「まもなく川小タイムが始まります。準備をしましょう。」

→意味：不審者が出たので、バリケードを作って教室待機。

② 「まもなく川小タイムが始まります。集合しましょう。」

→意味：教室のバリケード1か所をよけ、教室を出て、体育館に集合する。

※この時は、安全が確保されているときなので、近い方の階段を使ってよい。

5 動 静

今回の想定

- ・いつ 各学年教室での授業中
- ・どこで 1階職員トイレ前の廊下で
- ・どんな 4, 50代男性がうろうろしているのを
- ・誰が 用務員の政博さんが
- ・どうした 発見し、声をかけた。

<発見・報告・避難・解除までの流れ>

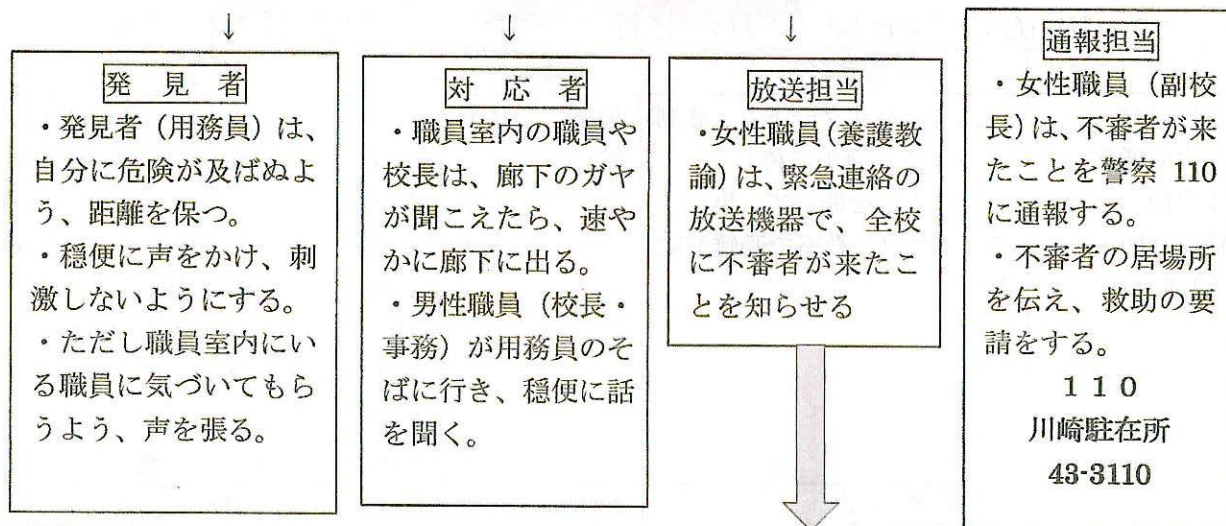
- ・1階職員トイレ前の廊下で、用務員が不審者を発見し、声をかけた。

「こんにちは。どのような御用ですか？職員室にどうぞお入りください。」

※この時、自分の身を守る距離を取りつつ、階段を上がらないように配慮する。

「校長先生、お客様です！」

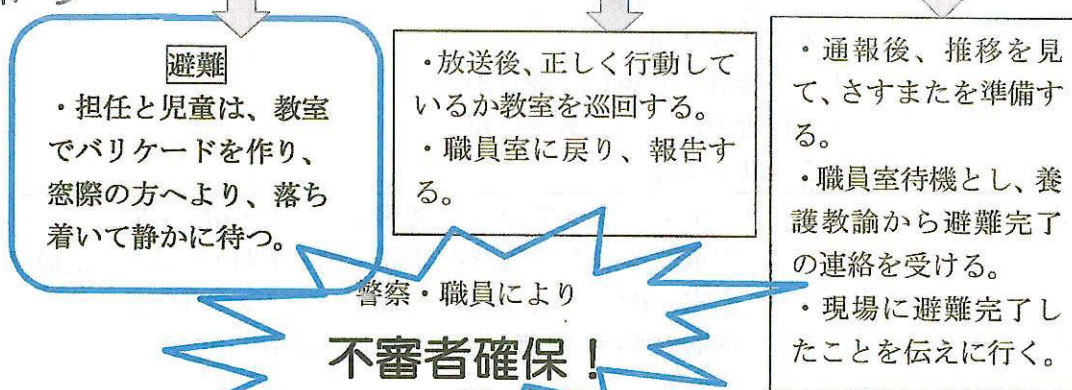
※大きな声で呼びかける。担外は、廊下のガヤに気づいたら、いつもの来客とは違うこと（不審者であること）を認識し、すぐ廊下に出る。



<緊急放送>

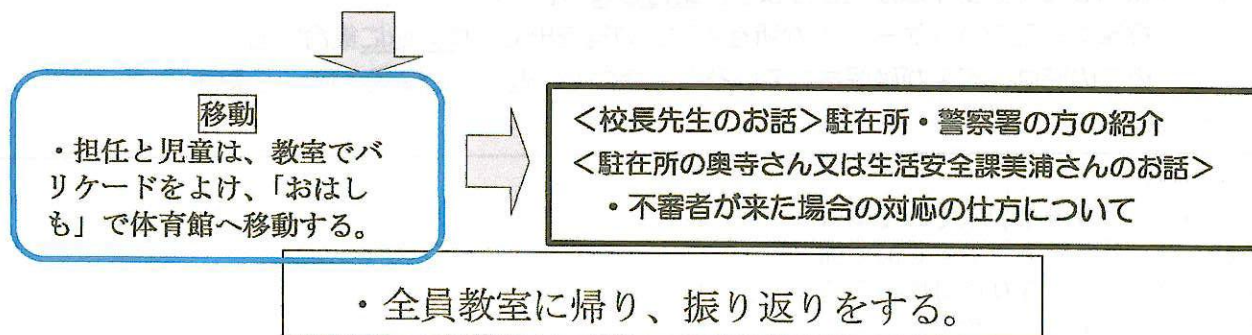
ピンポンパンポン 「まもなく、川小タイムが始まります。準備をしてください」
 「まもなく、川小タイムが始まります。準備をしてください」
 ※教室バリケードの意味を表す。

ピンポンパンポン



<2回目放送>

ピンポンパンポン 「まもなく、川小タイムが始まります。集合しましょう」
 「まもなく、川小タイムが始まります。集合しましょう。」



6 指導上の留意点

(1) 事前指導

- ① 訓練の目的を確認する。― 上記目的を参照のこと。
- ② 不審者侵入時の避難方法を理解させる。
- ③ 不審者侵入時の合図「川小タイム」の意味を理解させる。
- ④ 児童の恐怖心を必要以上にあおることがないようにする。

(2) 事後指導

- ・不審者が侵入した場合の合言葉と避難の仕方が分かったか。
(ふり回りカードに担任が記入して提出のこと)

7 協力機関 千厩警察署生活安全課・川崎駐在所

- ・事前に計画書をもとに打ち合わせを行い、助言をいただく。
- ・当日は、避難解除の段階で、不審者対応についてお話をしていただく。

8 職員事前学習会

- ・8月21日(木) 9:00～9:30
- ・さすまたの使い方やバリケードの作り方、暴漢からの身の守り方を教わる。
- ・講師：千厩警察署生活安全課

9 成果と改善

○事前学習を生かして対応できた。忘れないように時々確認したい。

○子どもたちも真剣に行っていた。バリケードもスムーズに作ることができた。

◆2回目の放送「川小タイムの準備ができました。集合しましょう」とする。

◆役割をひやす

- ・待機している教室への情報伝達
- ・避難後の見回り

◆介助が必要な児童の確認(特支学級、会議室)

◆日常指導として「開けたら閉める、開いてたら閉める」「先生の話をよく聴く」

No.	参加対象	活動名	日時	集合場所	活動内容	担当職員	主催・主幹	参加生徒名 (人数)
1	全員参加	情報モラル教室		学校	講義・演習	副校長	中学校・市民センター	生徒 (53名)・職員 (10名)
2	全員参加	川崎花火大会ゴミ拾い	8/17 (日) 6:00~7:00	北上大橋付近	ゴミ拾い	藤堂	まちづくり協議会	生徒 (48名)・職員 (8名)
3	3学年	Eポート事前説明会	8/27 (水)	学校	説明	工藤	川サボ協会	3年生・3学年職員
4	3学年	Eポート準備・練習	9/7 (土)	北上大橋付近	補助	工藤	川サボ協会	3年生・3学年職員
5	3学年	Eポート参加・役員	9/8 (日)	北上大橋付近	補助	工藤	川サボ協会	3年生・3学年職員
6	2学年	農業体験	8/25 (月) 26 (火)	かさい農産	農業体験	金野	中学校	かさい農産職員
7	2学年	職場体験	8/27 (水) ~29 (金)	各企業・施設	職場体験	菅原	中学校	(株) 門崎 セブンイレブン どんぐり 道の駅かわさき 川崎子ども園 川崎支所 (有) 川崎重機 一関市消防本部 (株) コメリ ドンと市川崎 (有) かさい農産
8	1学年	川崎の災害	9/2 (火) 13:35~14:25	学校	講義	山口	中学校	生徒 (18名)・地域の皆さん
9	1学年	震災学習	8/27 (水)	祭時大橋	震災学習	山口	中学校	一関市建設部治水河川課
10	PTA	PTA親子環境整備 (春)	6/21 (土) 6:00~7:00	学校	草刈り	村上	中学校	保護者 (44名)・職員 (4名)
11	PTA	PTA親子環境整備 (夏)	9/27 (土) 6:00~7:00	学校	草刈り	村上	中学校	保護者 (44名) 生徒 (17名) 職員 (6名)
12	PTA	Eポート大会を考える・乗船体験	6/22 (日)	北上大橋付近	ワークショップ 乗船体験		3学年PTA	3年生・3学年PTA
13	自主参加	社会を明るくする運動	7/29 (火) 10:00~11:30	道の駅	啓発	藤堂	市民福祉課	生徒 (10名)・教職員1名
14	自主参加	子ども神輿	7/26 (土)	天神祭	神輿の担ぎ手	—	吉田さん	生徒数名
15	自主参加	かわさきこども食堂 1回	5/2 (金) 12:30~15:30	市民センター	食事・活動	副校長	こども食堂・社会福祉協議会	生徒10名
16	自主参加	かわさきこども食堂 2回	6/28 (土)	市民センター	食事・活動	副校長	こども食堂・社会福祉協議会	
17	自主参加	かわさきこども食堂 3回 川の学校	7/28 (月)	市民センター	食事・学習	副校長	こども食堂・社会福祉協議会	
18	自主参加	かわさきこども食堂 4回	10/3 (金)	市民センター	食事・活動	副校長	こども食堂・社会福祉協議会	
19	自主参加	キューピー広場	8/8 (金) 9:00~12:00	防災センター	乳幼児遊び	藤堂	市健康推進室	
20	自主参加	川崎文化祭	10/31 (木)	市民センター	展示作業	—	市民センター	教職員3名
21	自主参加	川崎文化祭	11/1 (土) ~3 (日)	市民センター	補助	—	市民センター	

生徒が地域にボランティアで活動したもの

地域から生徒のためにボランティアで活動していただいたもの

協働活動について地域団体との話し合い

<第一回 熟議>

期 日：令和7年7月8日（火） 13：30～

場 所：川崎市民センター

参加団体：子ども食堂、市民センター、地域振興課

内 容：中学生のボランティアを必要とする各団体の活動の確認

ボランティア活動の内容

中学生と地域のかかわりに対して情報交換

【目的】

- ・中学生の人数が減少する中、地域から求められるボランティア活動の持続可能な姿を模索する。
- ・学校として育てたい生徒の姿を共有し、地域のさまざまな団体の活動と連携が取れる仕組みづくりを考える。

【今回の熟議の流れ】

- 1 生徒のボランティアを必要とする、各団体の活動の期日と必要な人数を確認する。※年間計画の模造紙に記入
- 2 ボランティア活動の課題点など意見交流
 - ・チラシだけじゃ集まらない？
 - ・食べ物でつらいと来ない？
 - ・活動内容がわからないので行きづらい？
- 3 地域おこし、町おこしにどうやったら生徒、保護者に関わらせることができるか、意見交流
 - ・Eポート大会、準備活動の人手が足りない。生徒だけでは・・・
 - ・近隣のイベントと連携して、準備活動共同実施とか・・・

【意見】

- ・子ども食堂では活動のリーダーとして力を発揮している。（小山さん）
司会、小学生のリーダーとして
- ・子ども食堂の課題は、ボランティアの確保。来た人を中心に保護者に声かけしてお願いしている。（小山さん）
- ・子ども食堂を中学生に地域の方と触れ合う機会にしたい。郊外班活動もなくなって地域と中学生に係る機会が減っている。地域の人と知り合いになる機会にしたい。（副校長）
- ・地域のつながりは薄くなっている。町全体の参加も少ない。（佐藤さん）

- ・川崎の若い力 登録してくれる生徒がいる。事業に参加して、参加者（小学生）の手伝いや運営の役割もお願いできる。登録してくれた生徒が次の生徒に声をかけ、広がっている感じはする。（佐藤さん）
- ・Eポート大会では、当日の中学生の負担を見直しつつ、今後の活動を考えて中学生を入れてのワークショップなどを取り入れている。（及川さん）
- ・以前は、「家庭の日」ということで毎月第2、第4週の日曜日は制定されていて、その時に参加する声がかけてもできたが、今は部活動が地域に移行して「家庭の日」もあやふやになっている。（佐藤さん）

<小野寺政博さんと打ち合わせ>

地域教育コーディネーターとして小野寺さんに決定（来年度から）

期 日：令和7年8月19日（火） 13：10～

場 所：川崎小学校

内 容

(1) 地域と共に中学生につけたい力とは

地域活動に自主的に参加できる力（自己決定力・地域への愛着・誇り・社会への参画する力）

(2) 職場体験、防災学習など地域人材の講師依頼と活動場所の提供

(3) 地域の運動会について

(4) 中学生と地域の関わりの状況について

<第二回 熟議>

期 日：令和7年10月9日（木） 16：00～

場 所：川崎中学校

参加団体：子ども食堂、市民センター、地域振興課

内 容：今年度の取り組みについて

中学生と持続可能なボランティアについての協議
情報交換

【今回の熟議の流れ】

- 1 自己紹介
- 2 ボランティア活動に参加する人、参加しない人の意見について、中学生から発表
- 3 地域団体から質問

【意見】

- ・川崎のわかい力に登録してほしい。空いた時間に来てもらえればいいので。
イベントの司会進行や川崎文化祭の下準備の手伝いを募集しています。（佐藤さん）
- ・町民体育祭は、地域の方と一緒に体育活動をする活動です。強制ではないし、コミュ

ニケーションが苦手な人もコミュニケーションの方法を身につけるためにも来てほしい。経験も積んでほしい。(佐藤さん)

- ・ E ボート大会の準備や当日の関わりは、3年生の授業の一環となっている。新人戦が近いので、1・2年生が来ることは難しい。PRに力を入れたいと思っている。今年は、中学生に協力してもらい動画を制作した。Eボートの反省の中で、中学生が元気にあいさつしてよかったなど評価が高かった。事前の活動から連携したい。(及川さん)

- ・ こういうのあったら子ども食堂に参加したいと思うこと教えてほしい。(小山さん)
子どもたちから・・・カレー・おにぎりだけでなくバリエーションがあるといい。

運動型の活動があったらいいな。ドッチボールや鬼ごっこ

- ・ ボランティア活動って何かな？災害の時や地域貢献という大きなことだけでなく、地域のごみを捨てたり、バス停の清掃をしたりすることなどもちょっとしたこともボランティア活動になると思う。(佐藤さん)

- ・ Eボートの運営で大変だったことは何かな？(及川さん)

子どもたちから・・・力仕事が大変だった。土嚢の作り方、片づけが大変だった。

発砲スチロールの栈橋を持ち上げるのが大変だった。

大人の人と一緒に活動してコミュニケーションが取れて楽しかった。違った価値観に触れることができた。地域の人と話す機会がなかったので話すことができてよかった。

猛獣対策について

<避難訓練>

1 目的

- ・猛獣が敷地内に侵入した際の対応の訓練と避難方法、避難経路等を確認するとともに、実践を通じ、命を守る対処方法について考える機会とする。（生徒）
- ・生徒を避難させる訓練にとどまらず、非常時の対応のしかたや通報訓練も含めた総合訓練とすることによって、非常時への適切な対応力を高める。（職員）

2 日時

令和 7 年 9 月 30 日 (火) 15:30～15:50

3 内容

- ・時間は、掃除の時間
- ・調理室に成獣の熊が進入。
- ・生徒の避難と警察、支所への連絡。

4 避難場所

多目的ホール

5 具体的行動

- (1) 掃除時間に、調理室で物音がするのに金野先生が気づく。扉のガラス窓より覗くと成獣の熊が冷蔵庫の中をあさっているのが見えた。開いていた窓より進入した模様。

金野先生近くにいた生徒に

「職員室の先生に成獣の熊 1 頭が調理室にいることを伝えなさい。」

「伝えたら、図書館側の階段を上って 2 階に避難しなさい。」と伝える。

応援の教員と共に金野先生は、廊下で大きな音をたて、調理室から熊が外へ逃げるようにする。

- (2) 熊の侵入の報告を受け、校長先生から生徒の避難を指示

- ① 岩渕さんは、職員室の公衆電話側の扉から外に顔を出し、熊の様子を確認する。

- ② 放送

校長先生の避難指示を受けて副校長が放送する。

「訓練。ただいま、調理室に熊が進入しました。生徒は、多目的ホールに避難しなさい。」

「清掃担当の教職員は、生徒を多目的ホールに避難するよう誘導してください。多目的ホールに朝会体形に整列したら、山口先生に報告してください。」

「山崎さんは、体育館通路付近で生徒の避難の安全確保をしてください。1 階の生徒の避難が完了したら、調理室側へ向かってください。金野先生と合流したら、大きな音をたてて熊を追い払うようにしてください。」

「2 階 3 年生教室近くにいる先生は、調理室へ向かってください。階段付近で様子をみて、金野先生たちと合流してください。」

- ③ 校長より職員室にいる職員に指示

「岩渕さんは、職員室外から熊が調理室の外に逃げるのを確認してください。」

「副校長は、警察、川崎支所に通報してください。」

- ④ 点呼

山口先生に報告。山口先生より校舎内連絡電話より職員室に生徒避難完了を連絡

- ④ 副校長より放送

「熊は、調理室の外に逃げましたが、校地内をうろうろしているので、多目的ホールの廊下

側のドア、非常扉を閉め、次の指示があるまで待機してください。」

⑤ 熊が外に逃げたことを確認し（ある程度しても逃げないときも含む）、金野先生、山崎さん、工藤先生、職員室に戻る。職員室にいた職員は、扉、窓を閉める。副校長は、警察、支所に通報する。

⑥ 熊が、裏の林の方に行くのを確認する。放送で「熊は、校地内から逃げました。」と連絡。

(3) 避難後

- ・集合隊形(全校朝会隊形)
- ・人員点呼と報告、異状の有無確認

(4) 避難訓練終了後反省会（進行 村上）

- | | |
|---|------------|
| 1 | はじめの言葉（進行） |
| 2 | 講評（山口） |
| 3 | 講話（校長） |
| 3 | 終わりの言葉（進行） |

(5) 解散

- ・各教室に戻り、帰りの会を行う。

6 訓練のシミュレーション

いつ	何を	誰が	どうする
15:31	熊を発見	金野	調理室の状況確認を確認する。近くにいる生徒に職員室への連絡と避難指示 ※応援が来るまで、理科室付近から様子を確認
15:32	避難指示	校長	熊出没の位置から一番遠い場所（多目的ホール）への避難を指示
15:33	避難指示放送	副校長	生徒に多目的ホールへ避難するよう放送（2回繰り返し） 併せて教職員に指示 「訓練。ただいま、調理室に熊が進入しました。生徒は、多目的ホールに避難しなさい。」 「清掃担当の教職員は、生徒を多目的ホールに避難するよう誘導してください。また、防火扉を閉めながら、避難してください。多目的ホールに朝会体形に着席したら、山口先生に報告してください。次の放送があるまで待機してください。」 「山崎さんは、体育館通路付近で生徒の避難の安全確保をしてください。1階の生徒の避難が完了したら、調理室側へ向かってください。」 「3年生教室付近にいる先生は、調理室に向かってください。」
	調理室へ応援	山崎 工藤	1階生徒の避難が完了したら、調理室へ向かう 西階段より防火扉を閉めながら1階におりる。熊の様子を確認しながら、金野先生と合流する。

	大きな音を立てる。	金野 工藤 山崎	熊が外に逃げるように大きな音を立てる 逃げたら、職員室へ避難。 ある程度やって逃げない場合も避難
15:34	避難指導	清掃区域担当教 職員	多目的ホールに避難するよう生徒を誘導する。 防火扉を閉める。 避難経路を誘導し、集合場所に整列する。 整列後、ただちに点呼・人数報告をする。
	計時開始	村上	避難指示終了時点から
	本部設置	山口・加藤	避難場所で待つ 救護
	職員室職員へ指示	校長	教職員に指示 「岩渕さん、職員室の扉から外へ熊が逃げるまで、確認してください。」 「副校長は、警察、川崎支所へ通報をしてください。」 ※それぞれの担当で目視確認、通報を行う。
15:37	集合整列 人員点呼・報告 避難完了の報告 生徒待機	生徒・教職員 担任が山口へ 職員室へ	集合整列。指揮:生徒指導主事 集合隊形:全校朝会隊形 学級会長→学級担任→山口へ報告する。 ※3分以内での点呼完了を目指す
15:40	熊が校舎外に逃げるのを確認	岩渕さん	校長へ報告 副校長に放送を指示 「校地内に熊がまだいるので、避難を継続させてください。」
	避難継続の放送	副校長	避難継続を放送で連絡（2回繰り返す） 「校地内を熊がまだ移動中。次の放送があるまで多目的ホールで待機してください。」
15:43	熊が正門より移動するのを確認	岩渕さん	校長へ報告
	避難解除	校長	副校長に放送を指示 「熊が校地外に移動したので、避難を解除してください。」 「職員室にいる教職員は、手分けして1階の窓、出入り口のカギを閉めてください。」
	1階の戸締り	工藤 山崎	戸締り確認 熊が校地外に出てもすぐ安全とはならないので、校舎に立てこもることを想定。 実際は、警察官、支所職員が来るまで校舎内で活動을續けて待つ。
15:44	避難解除放送	副校長	避難解除放送（2回繰り返す） 「熊が校地外に移動したので、避難を解除しますが、校舎内で活動してください。」
15:45	訓練終了放送	副校長	「以上で避難訓練を終了します。続いて、反省集会を行います。」

15:45	反省集会	校長 村上 山口	進行 避難時間、避難中の様子、避難後の教室の状況等 講評 校長より訓話
15:50	解散指示	村上	各学級に戻り、帰りの会を行ってください。 応援団指示をお願いします。

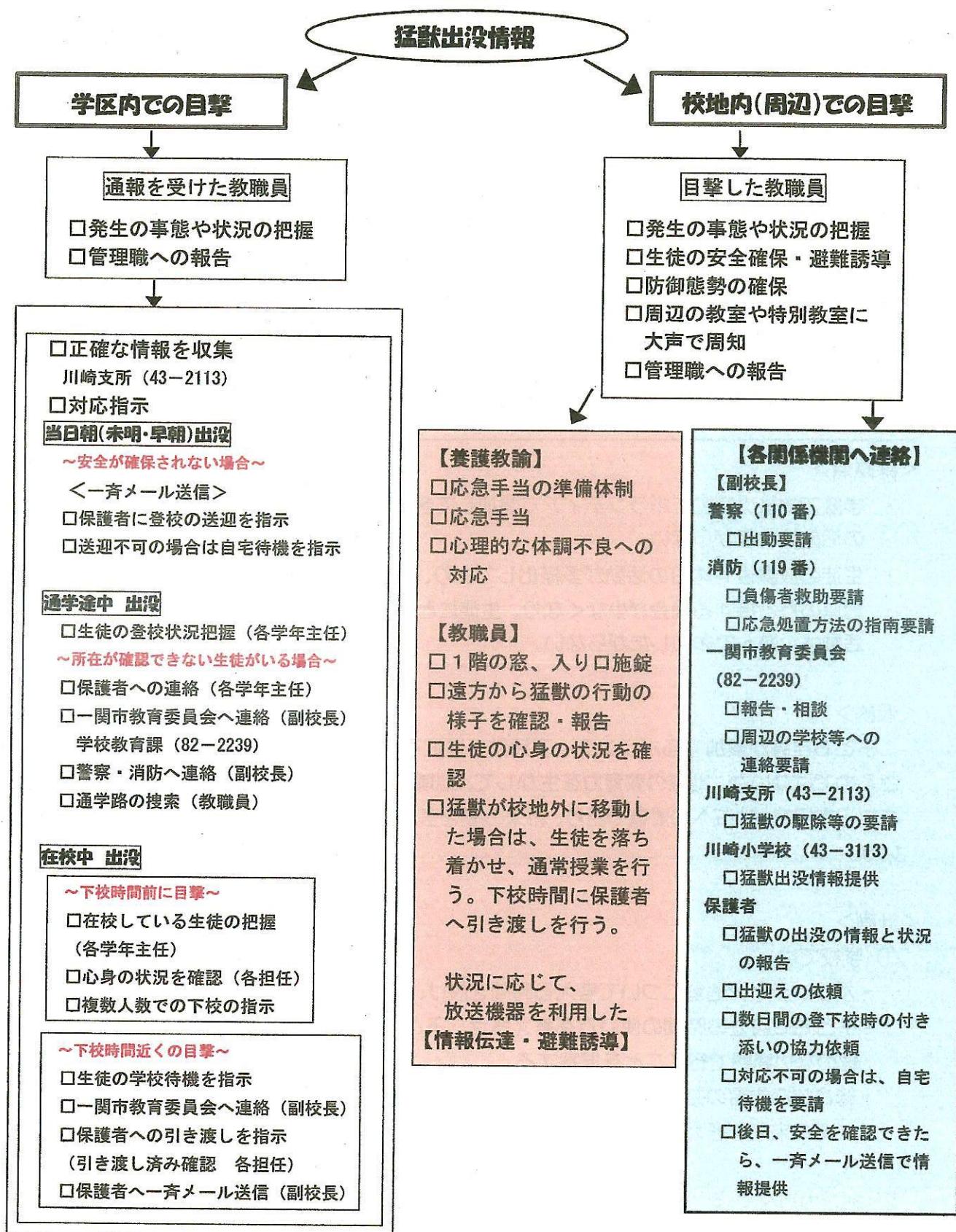
【職員意見】

- ・熊の出没が増えている中で、このような避難訓練を行うことは、子どもたちにとって良い経験となったのではないかと思います。また、防火扉を利用することで、校舎内への侵入を防ぐことができるため、適切な判断ではないかと思いました。
- ・熊を発見した先生方が、追い払う行動をしていましたが、危険性が高まるため、生徒たちと同様に避難しても良いのではないかと感じました。
- ・普段から、整然と清掃に取り掛かっているからこそ、このような避難行動が可能になるのだとしみじみ感じ入りました。防災減災は日常に息づくものであり、自立と協働は命を守る行動、決断、在り方に直結すると思います。また、「逃げろ、多目的ホールだ」の友の言葉を信じる力というか、そのまっすぐな目に一点の迷いもなく、頼もしく思いました。どこで誰といても、信頼関係を結び、助け合う場を作り出す力を失わずにいてほしいです。大変立派でした。
- ・子どもたちは、騒いだりせず速やかに避難していました。職員にとっても子どもたちにとっても防火扉について確認出来てよかったと思います。防火扉に限らず、施設の使い方、動かし方を共有しておくことが大事だと思いました。
- ・スムーズに避難できたと思います。足を怪我した生徒が調理室の清掃当番でしたが、走れない足で懸命に遠い多目的ホールを目指していきました。
- ・生徒の避難はとてもスムーズで態度も良好でした。
- ・内線電話の操作が不慣れでした。
- ・生徒には「熊を興奮させないよう大声を出さない」といいながら、実施計画では「熊が外に逃げるよう大きな音を立てる」となっていました。どちらが良いのでしょうか。

【まとめ】

- ・猛獣に対応した避難ではあったが、生徒はふざけることもなく整然と非難できてよかった。
- ・避難の際に防火扉を閉めるのは、良い対処方法だと思う。生徒も防火扉が閉まっているときの避難の仕方が分かってよかった。
- ・熊をそっとしておいた方が良いのか、閉じ込めた方が良いのか、外に逃げるようにしたら良いのか、職員では判断がつかない。どこに相談したらよいのだろう。

猛獣対応



【マスコミ等の対応】報道機関や関係機関等から生徒の所在等について問い合わせがあった場合は、窓口を一本化し、管理職が対応する。記者発表等の報道対応は、一関市教育委員会に相談し進める。

地域との協働活動について（案）

中学校の「まなびフェスト」の評価において、【よく思いやる生徒】（２）②と【よく鍛えみがく生徒】（２）②「自分の将来について考えたことがある」が低くなっている。この力の育成のため、次のように地域と協働で取り組んでいきたい。

次のような生徒を育てたい。

ボランティア活動に積極的に取り組む生徒

自分の夢や将来について考える生徒



そのために

ボランティア活動で地域の方々とふれあい、地域活動に主体的に参加する生徒を育てたい。

<課題点>

- ・ 学級で地域の活動にボランティアで参加してきたが、学校で強制的に参加させたものは、次の活動につながらない。
- ・ 生徒の放課後や休日の活動が多様化しており、学校で一斉に集めるのが難しくなっている。
- ・ 地域の方と接する機会が少なくなり、生徒にとって見知らぬ人が増えた。知り合いがいない活動は、進んで参加したがない。

<仮説>

子ども自身が参加するボランティア活動を選択することで、子どもの自己決定の力を育成できるのではない。地域の教育力を生かして、地域活動の運営に携わらせることで、子どもたちに自己有用感、地域への愛着や誇り、将来の夢を考えるきっかけを与えることができるのではない。

<計画>

① 学校では

- ・ ボランティア活動について考える時間を設け、心を育てる。
- ・ 子どもに自分の時間の使い方を考えさせ、子ども食堂や地域行事のボランティア活動に無理のない範囲で行くことを提案する。
- ・ 総合的な学習の時間を使い、地域の現状や解決策について考える。
（町の未来を考える）

② 地域の方々では

- ・ 子ども食堂での活動の保障。社会福祉協議会の支援。
- ・ 町民体育祭の運営に子どもたちが関わる支援。体育協会の支援。

- 地域の課題について、話題にする。地域振興課、警察署、国土交通省等の支援。
- 子どもたちにイベントを企画させてみる。市民センター、地域おこし協力隊の支援。
- 職場体験の場を設定する。地域の団体の支援。

③ 生徒、地域、学校で

- 持続可能なボランティア活動を目指す体制づくり。
- 生徒数の減少を踏まえて、生徒が疲弊ないようにボランティア活動の量の調整。